

保険・年金 フォーカス

英国の生命保険市場

—年金・投資商品中心の市場構造と金融危機、債務危機の影響—

保険研究部門 主任研究員 松岡 博司

(03)3512-1782 matsuoka@nli-research.co.jp

1—はじめに

エリザベス女王即位 60 周年の祝賀に沸き、ロンドンオリンピックの開幕まであと 1 ヶ月を切った英国。めでたい行事は多いが、昨今の英国生保業界は金融危機、債務危機の影響を受けた変調からの回復を目指して悪戦苦闘している。

英国は近代生命保険業発祥の地である。近代生命保険業は 1762 年、ロンドンにエクイタブルソサエティが設立され、年齢別の死亡率を基準とした保険料設定等を開始したことに端を発する。

スイス再保険が先日発表した 2011 年の生命保険料の世界シェア¹では、英国は 8.00%のシェアを有し、米国 (20.46%)、日本(19.97%)に次ぐ世界第 3 位の地位を維持している。

英国で生命保険を提供している生命保険会社は 309 社ある。そのうち 129 社は英国で免許を受けた生保会社である。残り 180 社は英国以外の EU 加盟国で免許を受け、EU のサービス提供自由のルールの下、英国において生命保険を提供している生保会社である。会社数は多いが、グループ化が進行しており、上位 10 グループが 84%のシェアを有している (2010 年)。

ちなみに英国では生命保険をロングタームインシュアランス (長期保険) という用語で表すことが多い。一方、損害保険はジェネラルインシュアランスと称される。

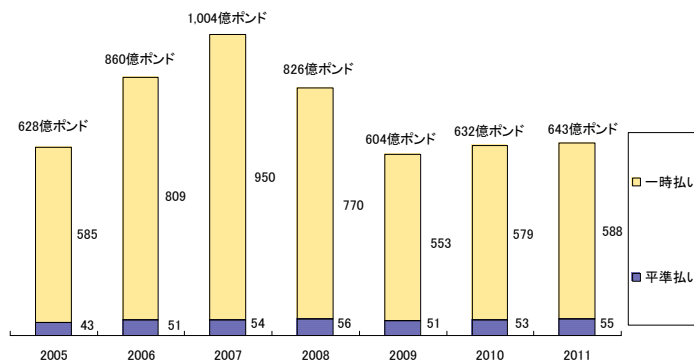
2—金融危機、債務危機の中での業績動向

次ページのグラフ 1 は、英国生保市場における生命保険・年金の新契約販売状況を新契約保険料で見たものである。2000 年代、英国の生保市場は 2007 年まで順調に拡大して来たが、金融危機に見舞われた 2008 年に対前年▲18%の大幅な落ち込みを経験し、さらに 2009 年には対前年▲27%と、急激な市場縮小に見舞われた。その後、欧州の債務危機が顕在化する中もちなおし、2010 年には対前年 5%

¹ http://media.swissre.com/documents/sigma3_2012_en.pdf 参照。

増加して金融危機前の 2005 年の水準を回復し、2011 年には対前年 2%増と、かろうじてプラス成長を確保した。ユーロに参加していない英国は、欧州債務危機の中では一種独特の立場にあるが、そうした事情を反映してのものであろうか。

グラフ 1—英国における生命保険・年金販売額（新契約保険料）の推移



(資料) 英国保険協会 ABI のホームページ情報より

3—年金、投資商品中心の市場構造

英国の生保市場では年金、投資商品が主力商品となっている。

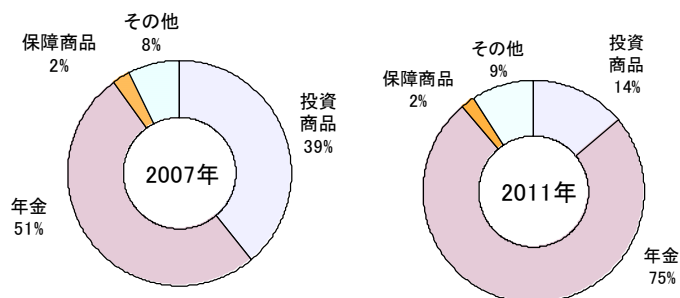
1 | 一時払い商品の割合が高い生保市場

上のグラフ 1 でわかるように、各年、一時払い商品による保険料が全体の 9 割以上を占めている。もっとも販売額が大きかった 2007 年には一時払い保険料の割合が 95%であったが、直近 2011 年にはその割合が 91%にまで低下している。

2 | 年金、投資商品の割合が高い生保市場

一時払い商品の割合が高いのは、年金、投資商品の割合が高いからである。新契約保険料の商品類型別構成比を見たグラフ 2 では、年金、投資商品の割合がたいへん高く、死亡保障や重度疾病に罹患した場合の保障を提供する保障商品は 2%を占めるにすぎない。

グラフ 2—生命保険・年金販売額（新契約保険料）の商品類型別構成比



(資料) 英国保険協会 ABI のホームページ情報より

【年金分野】

英国では公的年金の財政難を解決する一つの方策として88年以来、公的年金の所得比例部分を離脱（コントラクトアウト）して、民間の個人年金を代替として活用し老後に備えることが認められている（その場合、税制優遇措置が認められる）。生保会社は年金の原資を積立てるための商品を個人退職年金等として提供している。こうした年金原資積立期間中の金融商品は生保会社だけでなく銀行などからも販売されているが、年金の支払段階になると、契約者は積み上がった原資を使って、終身年金に加入しなければならず、この段階の終身年金を提供できるのは生保会社だけである

【投資商品分野】

投資商品の主なものは一時払いの生命保険として販売されているインベストメントボンドである。この商品では、死亡時に支払われる死亡給付金は払い込み保険料の101%（または100%）のみで、生命保険とは言いつつ、死亡保障額は小さい。

【保障商品分野】

販売占率は小さいが、死亡保障や重病罹患時の保障を提供する、定期保険、終身保険、重度疾病保険等も販売されている。しかし定期保険等はコモデティー（日用品）化が進行していると言われ、小口で購入されることが多い。また定期保険販売のかなりの部分が、モーゲージ（不動産担保の住宅ローンなど）の借入時に、その返済を確実にものにするため加入される定期保険（わが国で言えば信用生命保険のようなもの）である。英国においては、純粋な意味での死亡保障商品の市場規模は小さい。

【販売チャネル】

年金、投資商品を中心とする市場性から、英国生保市場では、IFA (Independent Financial Advisor = 独立金融アドバイザー) または whole of market アドバイザー（全市場アドバイザー）と呼ばれるブローカーが圧倒的な販売シェアを有している。

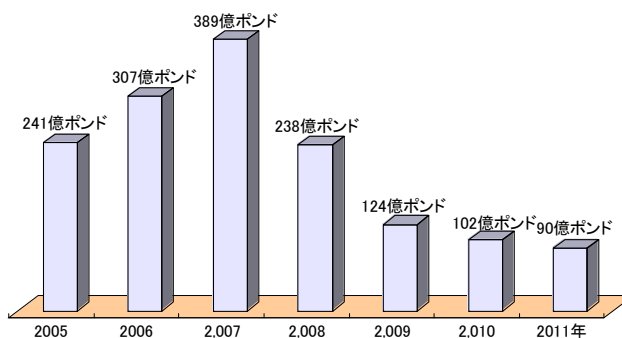
4—さいごに

グラフ1、グラフ2からわかるように、金融危機後の英国生保業界の販売不振の主な原因は、投資商品の販売が振るわなくなったことである。グラフ3は英国生保市場における一時払い投資商品（＝ボンド）の販売額の推移を表したものであるが、グラフ1とほぼ同様の推移を示している。

消費者の投資熱が高い間は好調であった英国生保業界の業績が、金融危機、債務危機の中、消費者の投資意欲が冷めるに従い悪化した。

今後、わが国においても生保事業が年金、投資商品分野へ事業を広げていくことも予想されるが、英国における状況にも留意を払い、バランスのとれた事業構造を維持することが必要かと思われる。

グラフ3 ボンド販売額（新契約保険料）の推移



(資料)英国保険協会ABIのホームページ情報より